

かなざわ風鈴の作成体験
Let's make a KANAZAWA WIND BELL

オリジナル風鈴をつくろう！

HANDS-ON WORKSHOP

「かなざわ風鈴」は金沢の新しい風鈴です。
この雅やかな風鈴を作ってみませんか？
アレンジを加えて自分だけのオトとカタチを描いてみましょう！

日時 8/17 (土)、24 (土)
13:30 より受付

所要時間は 30~60 分

対象 子どもから大人まで 誰でも OK

費用 無料です！

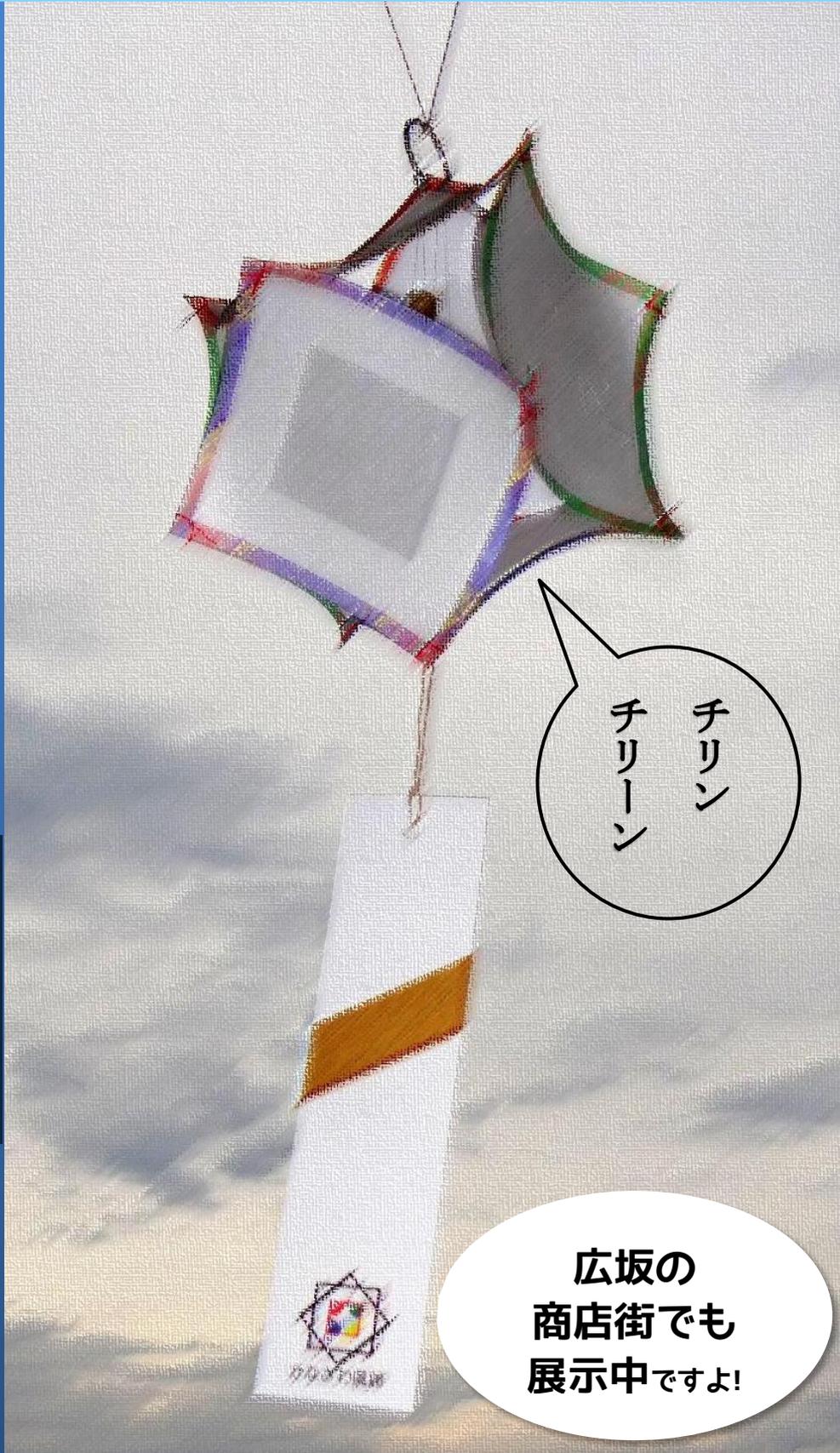
場所 Gallery & Workshop Colony 2 階
920-0962 金沢市広坂 1-2-34



主催：広坂振興会
金沢工業大学 建築系 土田研究室

問い合わせ：
tsuchida@neptune.kanazawa-it.ac.jp

本事業は『2013 年度「学都金沢」地域づくり活動支援事業（金沢市）』の補助を受けて実施されています。



チリン
チリーン

広坂の
商店街でも
展示中ですよ！

かなざわ風鈴とは？



かなざわ風鈴

由来

「かなざわ風鈴」は、音具（音の鳴る部分）を和紙でできた風受けが囲む構造になっています。紙の暖かな質感を持ちながら、反りの付いた少し変わった形状になっています。この形は、2012年に金沢工業大学土田研究室にて考案したものです。それを2013年に風鈴として活用することを発想し、新しい金沢発の工芸にしたいという心で「かなざわ風鈴」と名付けました。

金沢らしさ

外観のデザインは、金沢らしさを感じさせることを目指して、明るく繊細なイメージを持たせるようにしています。しかし、金沢に由来からあるものを使うという事だけではなく、新しいものを生み出すのも金沢の力です。

オト

その音は、音具（真鍮の棒）が揺れて触れ合うことで発生する仕掛けになっています。真鍮は硬くてよく振動するので、とても余韻のある澄んだ高い音を発することができます。楽器などにも使われています。金沢では魚住為楽氏の銅鑼が有名です。音具は風受けの内部に吊られています。風による揺れが、内部の音具に伝わる仕組みです。

カタチ

風受けの形ですが、現在の形態は正六面体の正方形の各面を45度回転させ、頂点同士を合掌の形に接合しているというのが特徴の一つになっています。このような接合により、素材

の曲げの力で形を保持できるようになっているのです。同様に正三角形の面を持つ正四面体や正五角形の面を持つ正12面体でも同様の理論で立体を構成することが可能です。

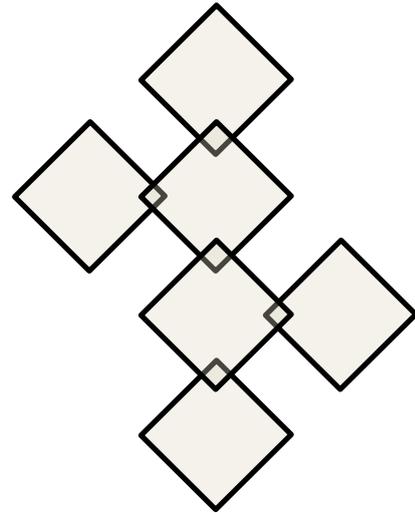


図 かなざわ風鈴の風受けの展開図

扱い

風受けは、揺れやすいように軽量の紙で作られているため、雨には弱いのが難点です。そのため屋外に吊るした場合には、天気の悪い日や夜には屋内にしまうという手間がかかります。最近では風鈴の音も騒音ととられてしまうこともありますから、夜は部屋の中にしまうこともまちのルールの一つですね。

応用

仕組みが分かればだれでも作ることができます。あなただけのかなざわ風鈴を作ってみてください。また、後から内部に照明を取り付けることが可能です。隙間がありますので、LEDのように小さな光を入れることができます。夜の「あかりオブジェ」として楽しむのもよいでしょう。

(土田義郎・金沢工業大学)